

命を支えておられる神

詩篇139篇13〜24節

あなたはわが内臓をつくり、わが母の胎内でわたしを組み立てられました。(13)

詩人が神と自分との関わりがどこから始まったのかを思い巡らしたとき、母の胎内にまで遡りました。すでにあの時から、神と自分との関係が始まっていた、と驚きました。

天地を創造された壮大な神が、この小さなわたしをも造られたと詩人は語ります。「あなたはわが内臓をつくり、わが母の胎内でわたしを組み立てられました」。どんな人も神によつて命が与えられたのです。ここに命の尊厳があります。ところが人間は自分たちでこの命の尊厳を失っています。「できちゃった」などと言うことによつて、我が子を生まれて来なくても良かった存在であるかのように表現します。しかし、真実はそうではありません。どんな人も、この世に生まれて来なくて良かった人などいないのです。神が「生きよ」と言われたからこそ命が与えられたのです。母の胎内に命が与えられた時から、神はずつとわたしたちを支え続けておられます。このことが分かるとき、人生の意味が変わります。わたしたちはたまたま生まれたのではなく、神が確かな意図をもって命を与えられたことを知るからです。このわたしの人生にも意味があり、そこに命を与えられた神の目的があると。今日も、わたしたちに命を与え、このところまで生きることを許してください。御前に心からの礼拝をささげようではありませんか。